

平成 29 年度 事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日)

平成 29 年度の概況

平成 29 年度は、社会福祉法人制度改革により、経営組織が見直され、「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」等、社会福祉法人の見える化に取り組みました。

施設内では、登録特定行為事業者として、医療的ケアが必要なご利用者に対し、資格を取得した職員が医師の指示のもと実践し、ご利用者様やご家族様から信頼できる、質の高い介護を提供させていただきました。

健康維持にかかせない食事において、見て触れて楽しんでいただけるように、山形市特産の平清水焼きの食器を、ご利用者様が使いやすいようにオリジナルで作っていただき、大変喜ばれました。

また、高瀬、楯山、山寺地区の地域の代表の方々との懇談会を初めて開催しました。地域のこと、施設のことについて相互理解を深め、要望や意見交換などをする機会となりました。

介護人材不足が深刻な中、国家資格の介護福祉士を目標に、スキルアップをはかりたいという職員を 3 名採用しました。現在、民間の介護養成機関と連携し、介護初任者研修を修了し、第 2 段階の実務者研修受講までにいたしました。働きながら学び、実践に生かせる喜びを話していました。

施設整備計画は、給水管改修工事、居室壁張替、既存棟窓交換を実施し、施設内が明るくなったことに加え、施設独特の臭いも改善されご利用者様が快適に生活できる環境が整いました。

また、狭かった職員駐車場整備工事に着手することができました。

各事業部門報告

()は前年度数値

(1) 特別養護老人ホーム

ご利用者様 80 名を 3 つのユニットに編成し、新たにユニットリーダーの資格を持った職員を責任者として配置して、ご利用者様の特徴に合わせた介護に取り組み始めました。その人に合わせた離床時間を設け、昼夜の区別がつくように着替えをするなど、こまめな介護ができるようになりました。

内訳は利用者定員 80 人に対し、平均利用率 97.1% (97.8%)、平均要介護度 3.7 (3.6)、平均年齢 86.9 歳 (86.3 歳)、入退所の状況は年間 28 人 (22 人)、うち要介護度 1, 2 の特例入所 1 人 (0 人) となっています。 看取り介護 9 人実施いたしました。

(2) 百花のいえ

最高齢 103 歳のご利用者様と生活して、ご長寿の秘訣をお聞きしながら「のんびり、ゆったり」自分のペースで生活することに介護を展開しました。 20～25%のご利用者様は医療的ケアが必要な方で、介護職員が医師の指示のもと、指導看護師から研修をうけながら経管栄養などの医療的ケアを実施しました。

内訳は利用者定員 20 人に対し、平均利用率 96.0% (99.0%)、平均要介護度 3.7 (3.7)、平均年齢 91.3 歳 (90.5 歳)、入退所の状況は年間 7 人 (4 人) となっています。看取り介護 3 人実施いたしました。

(3) ショートステイセンター

介護負担軽減や家屋状況から長期利用者の利用が増加傾向にありました。 市役所より依頼があり措置入所の方 1 名、約 3 ヶ月ご利用がありました。

年間利用延人数は要介護者が 7,610 人 (7,711 人)、要支援者が 512 人 (681 人)、合わせて 8,122 人 (8,392 人) で利用率 111.3% (115.0%) でした。

(4) デイサービスセンター

サンシャインクラブを午後も実施する体制をつくりました。 お一人暮らしのため入浴や夕食を召しあがっていただくご利用者様もお使いいただきました。

年間利用延人数は、一般型の要介護者が 6,028 人 (5,233 人)、総合事業 1,939 人 (1,394 人)、合計 7,967 人 (7,515 人) で利用率は 88.5% (84.0%) でした。

サンシャインクラブの年間利用延人数は、1,843 人 (522 人) でした。

(5) 居宅介護支援センター

介護支援専門員を 2～3 名配置し、主に高瀬、楯山を中心にケアプランを作成しました。

毎月第 2 水曜日のサン茶インは、毎月テーマを決めて在宅で役に立つ情報を提供させていただきました。 年間 84 人の方と情報交換を行いました。

年間ケアプラン件数合計 818 件(1,170 件)でした。

(6) シルバーハウジング

山形市から委託を受け、山形市大森住宅シルバーハウジング（高齢者世話付住宅）に居住する高齢者に対し生活援助員を派遣し、安否確認、生活相談、緊急時の対応等のサービスを提供しました。後半からコール方式が警備会社経由に変更となり、ご利用者様がコールを押すと警備会社から連絡が入る仕組みに変更になりましたが、円滑に移行できました。

内訳は、安否確認が 3,711 件(3,430 件)、生活相談が 41 件(41 件)、緊急対応が 4 件(3 件)でありました。

(7) 地域包括支援センター

地域の高齢者の身近な総合相談窓口として業務を推進しました。地域の高齢者が元気で明るく生活できるように、介護予防に力を入れ、健康講座や認知症の講演、サロン立ちあげのきっかけづくりを行いました。また、管内の医療職のネットワークづくりも実施し、県立中央病院地域連携室が見学に来るなど、お互いの仕事への理解を深めることができました。

内訳は初回相談件数が 144 件(190 件)、相談後の連絡・調整が 6,654 件(6,001 件)、介護予防ケアプラン作成が 1,787 件(1,147 件)、総合事業支援 272 件(527 件)でした。